

## V 基準ごとの自己評価

### 『理念と目標』

#### 1-1 教育・研究理念と目標の設定およびその公表

##### 【現状】

##### (1) 教育・研究の理念と目標の設定

松山大学薬学部医療薬学科は、本学の建学の精神ともいべき校訓「三実主義」を教育理念とし、「強い倫理観をもった社会に有用な薬剤師ならびに薬学関連分野で幅広い知識や人類福祉に貢献できる実践力を有する高度専門職業人を養成する」ことを目標としている（Ⅱ章参照）。近年、医療技術や医療機器の発達、先端科学の進展とそれを背景とする新しい医薬品の創製、医薬分業の推進等に伴う医薬品の安全使用の問題など、薬学教育がカバーすべき分野は大きく拡大しつつある。薬剤師という職能を支える社会性や倫理観の醸成も一層重要になりつつある。したがって、本学部のこの教育研究の理念・目標は、「時代が求める薬のスペシャリスト」を反映したものである。松山大学薬学部細則において、本学部の教育目的および教育目標は以下のように明記されている。

---

##### ・第1条（教育目的）：

薬学部医療薬学科は、高度化する医療現場の要請に対応できる質の高い薬剤師の養成ならびに薬学関連分野で幅広い知識や人類福祉に貢献できる実践力を有する高度専門職業人の養成を目的とする。

##### ・第2条（教育目標）：

医療薬学科では、前条の目的を達成させるために、かけがえのない生命を守る学問の教育・研究に携わっていることを常に意識し、最新の医薬情報や医療知識を的確に捉え、『ヒトの健康を研究する』を念頭に、様々な視点で活発な質の高い教育・研究活動を実施する。

---

この薬学部細則は学生便覧に記載されており、入学時のガイダンスにて配布され、詳細な内容についての説明を行うことにより学生への周知徹底を図っている。また本学ホームページ（大学の概要－教育目的と教育目標－）や大学案内にも記載されており、広く社会に公表している。

##### (2) 深い学識及びその応用能力等を身につけるための取組み

本学部では4年次前期から6年次後期までの比較的長い期間にわたって研究室に配属され、卒業実習として研究活動を行う。本学部では教員の研究活動を重視しており（V.9-2章参照）、学生は個々の教員とともに最先端にしてオリジナリティの高い研究に携わることができる。卒業実習に活用するため、本学部には最先端研究施設が整えられている（V.10-1-3章参照）。

研究活動を通じて、学生は教員と人間的に触れ合い、講義だけでは得ることのできない高い専門性と人間性を、さらには深い洞察力や鋭敏な問題発見能力を涵養することができ、さらに生涯学習の自覚と基礎を身につけることができる。6年次後期に研究成果をまとめ、論文として発表することは、論文の構成力やプレゼンテーション能力を養うことにつながる。中でも卒業後、大

学や企業の研究者をめざす学生にとってはこの3年間にわたる研究活動はその準備段階に相当し、重要である。

#### 【点検・評価】

- 1) 人間の生命や健康にかかわる薬剤師には、専門的かつ幅広い知識・技術が求められる。また、現在医療の著しい発展や高齢社会の到来により、医療現場のさまざまなシーンで薬剤師の能力がますます必要とされてくる。そこで本学部では、医療人としての薬剤師に必要な学識及びその運用能力並びに薬剤師としての倫理観、使命感を身につけるための教育・研究の理念と目標を設定し、本学ホームページや大学案内に公表している。
- 2) 薬学はもの（くすり）とひと（患者さん）の二つの核をもつ学実両面の総合科学であり、これからの薬剤師に求められる資質は、薬剤を科学的に検証できる十分な学識と実践力である。そこで本学部では、資格試験合格のみを目指した研究に偏重せず、4～6年次の3年間にわたり卒業実習を実施する。

#### 【改善計画】

充分実施されており、改善計画はない。

## 1-2 理念と目標に合致した教育の実施

#### 【現状】

本学部における学生への教育を行うにあたっては、本学部の理念と目標を達成するために、本学部の基本理念を十二分に認識した上で、薬学教育モデル・コアカリキュラムの到達目標を意識しつつ、講義、演習、実習科目を通して、創造性に富み学生の探究心をくすぐるような教育に取り組んでいる。本学部の基本理念を以下に示す。

- 
1. かけがえのない生命を守る学問研究にたずさわっていることを認識させる。
  2. そのために幅広い教養教育、倫理教育を徹底させる。
  3. 薬学部生に基礎科目から高度な専門科目へと系統立てて教育し、かつ研究にも従事させることで高度な知識と応用能力を備えた薬学の専門家を養成する。
  4. 医療現場でさまざまな患者と接触することになることから、個々の患者に対応できるコミュニケーション能力を身につけさせる。
  5. 薬学の研究は急速な勢いで進んでおり、最新の薬学を学ばせるために卒後教育を徹底することで、本学卒業生の質保証をはかる。
  6. 公開講座の開講や薬用植物園の市民開放など薬学部がもつ有形無形の資源を活用して社会貢献を実現する。
- 

これらを達成するために、入学直後から「生命倫理学」や「薬学史」といった授業科目を配置し、生命を守るためにこれまで人類が払ってきた努力、培われてきた倫理観などを学ばせている

ほか、薬学専門教育を受けるのに必要な基礎的知識および教養を無理なく身につけられるような学習プログラムを編成している（V.2-1章参照）。また、コミュニケーション能力は短期間には身に付かないことより、入学直後より全学年にわたって、自己研鑽・参加型の学習を繰り返し実施し、その定着を図っている（V.5-1章参照）。本学部では、以上のような教育は言うまでもなく薬学研究を通じた教育も重要視しており、学生を卒業実習（研究）に携わらせることにより、最新の薬学知識、コミュニケーション能力、優れた倫理観を実践的に学ばせている（V.1-1章参照）。

さらに、学生個々人の学習の理解度や進捗状況について、講義担当者だけでなく、各担当アドバイザーが必要に応じて、その都度確認し、学生が在学期間中に教育課程の成果が上げられるよう、サポートしている（V.8-1-1章および8-1-2章参照）。

#### 【点検・評価】

- 1) 本学の校訓である三実主義に基づいた教育が行われており、学生の気質、学業成績等を総合的に勘案して、現時点では十分に目標が達成されている。
- 2) 本学はまだ薬剤師国家試験を経験していない。本学部の理念と目標が十分に達成できたか否かは、平成23年度以降にあらためて検証する必要がある。

#### 【改善計画】

社会状況や学習環境の変化により、今後対応が必要になる可能性はある。しかし、現況下では内容的にも時間的にも最善の教育プログラムを提供しており、改善の計画はない。